

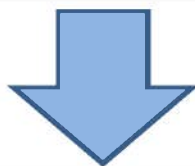
技術概要書（様式）

※別紙2

技術分類	☒ 安全・防災 ☐ 維持管理 ☐ 環境 ☐ コスト ☐ ICT ☐ 品質 （該当する分類に○を付けてください）		
技術名称	雑草防止工法	担当部署	営業部
NETIS登録番号		担当者	佐々木 高信
社名等	中里産業株式会社	電話番号	0947-32-2132
技術の概要	1. 技術開発の背景及び契機 歩道側・車道側及び中央分離帯部分に多くの雑草が繁殖するため、歩行者や車両等が通行する際に非常に危険で、改良が求められていました。 当雑草防止工法研究会では、雑草が繁殖している歩車道境界ブロック等（歩道部・中央分離帯部）の形状を研究し、雑草の繁殖を抑制できる製品を開発致しました。 2. 技術の内容 ・コンクリート二次製品とアスファルトが噛み合い隙間を作らない形状としているので、雑草の繁殖を抑制できます。 ・アスファルト下から雑草が、コンクリート面とアスファルト面の間を伸びようとしても、突起部がありその伸長を許さない構造です。 ・コンクリートのアスファルト部分に雑草の種が入り込み成長しようとしても、下の乾燥したコンクリートによって根は成長できません。 3. 技術の効果 ・防草対策を施すことにより、雑草がなくなります。そのため、景観が良くなり道路環境の改善につながります。 ・維持管理のための草刈り費用を抑えることができます。 4. 技術の適用範囲 ・新設道路、道路改良工事等の路側帯、中央分離帯に使用可能です。 5. 活用実績 ・国の機関 2 件（九州 2件 、九州以外 0件 ） ・自治体 50 件（九州 40件 、九州以外 10件 ） ・民 間 0 件（九州 0件 、九州以外 0件 ）		

雑草防止工法の特徴

- NETIS 登録はすでに 10 年間掲載済みです。
- 雑草をなくすることで、景観が良くなり、道路環境の改善になります。
- 維持管理に要する草刈り費用を削減できます。
- 施工性は従来と同じです。特に舗装材の新設施工や撤去工事等も従来と同じ要領で行えます。
- 歩車道境界ブロックの JIS 形状をそのまま確保しているのでも車の衝撃荷重に対して強いうえ、下幅が広いので安定性が向上します。
- 雑草防止工法の突起は、植物の成長を確実に止める効果があります。また、舗装部が突起としっかりかみ合うため、舗装がひび割れたり、ずれたりしない効果があります。



雑草防止工法の構造

「雑草防止工法」は製品の一部をカット、または張り出させてその水平部の中央に突起を設けた構造となっておりその効果は次の 3 つです。

- ① コンクリート二次製品とアスファルトがかみ合い、隙間を作らないので雑草は生えにくくなります。
- ② アスファルト下から雑草がコンクリート面とアスファルト面の間を伸びるとしても突起部があり、その伸長を許さない構造になっています。
- ③ コンクリートとアスファルト部分に種が入って成長しかけたとしても下の乾燥したコンクリートによって根が成長することができません。



これまで主に歩車道境界ブロックについて説明していますが、当然「路渠」、「開渠」、勾配可変側溝等の側溝類にも応用できます。また、鉄筋コンクリート L 型やその他の多くのアスファルトやコンクリートと接続する部分にも応用できます。